

東京マラソン 警備・救護強化プロジェクト

報告書

2013年12月4日



一般財団法人東京マラソン財団

はじめに

本年4月、ボストンマラソンで起きた爆弾テロ事件以降、多衆が集まるスポーツイベントにおいて、警備・救護体制の強化が喫緊の課題となっています。

このような状況を受け、東京マラソン財団では、来年2月に開催する東京マラソン2014における警備・救護体制を包括的に見直し、強化を図るため、専門的知識の高い関係団体や運営協力団体を構成員とするプロジェクトを設置しました。

この報告書は、プロジェクトでのこれまでの検討結果を踏まえ、今後の対策の方向性を示すとともに、改めて世界に対し、日本の「安全・安心」を示すためのものです。

警備・救護強化の考え方

Phase 1 「安全・安心な大会」のPR

警備及び救護体制を広く情報発信するなど、「安全・安心な大会」をPRすることで、犯罪に対する抑止効果を高めます。

Phase 2 警備体制の強化

警備・監視体制等の増強や、大会スタッフ等への危機管理対応等の啓発を行い、不審物・不審人物の早期発見・排除などの防止策を講じます。

Phase 3 救護体制の強化

大量の負傷者が出た場合を想定した救護体制の連携・強化や、トリアージの活用など、被害を最小限に食い止める救急・医療対策を講じます。

(危機管理体制の強化)

緊急時に備え、大会運営本部や警備・救護等関係団体、大会スタッフ等関係者間で正確かつ迅速に情報が伝達されるよう連絡体制を強固にします。

具体的な対応策

Phase 1 「安全・安心な大会」のPR	4
取組1-1 ランナー等による「安全・安心」ムーブメント	4
取組1-2 警備・救護体制の情報発信	5
Phase 2 警備体制の強化	6
取組2-1 警備・監視体制の増強	6
取組2-2 規制エリア入場の際のチェック強化	6
取組2-3 コース沿道地域との連携	7
取組2-4 大会スタッフ等への危機管理対応等の啓発	7
Phase 3 救護体制の強化	8
取組3-1 フィニッシュ地点の救護機能強化	8
取組3-2 医療救護スタッフ等への緊急対応等の啓発	8
取組3-3 救急車両等の配備や協力医療機関の確保	9
* 危機管理体制の強化	10
取組 1 情報連絡体制の強化	10
取組 2 通信インフラの強化	11

Phase 1 「安全・安心な大会」のPR ①

取組1-1 ランナー等による「安全・安心」ムーブメント

ランナーやコース沿道地域の方々など、大会に参加する人々がひとつになり、「安全・安心な大会」に導くためのムーブメントを創出します。

「安全・安心な大会」に繋がるイメージワードの入ったリストバンドを作成し、参加ランナー全員に東京マラソンEXPOで配布し、大会当日の着用を促すとともに、監視活動等の協力を要請したコース沿道地域の方々にもリストバンドを着用いただきます。（取組2-3）

また、東京マラソンに出場のエリート選手や広報企画ランナー（著名人）についてリストバンドの着用を促し、話題性の喚起を図ります。

リストバンドイメージ（安全・安心なイメージカラー 緑色）

The Day We Unite.
TOKYO MARATHON 2014

SAFE & SECURE

個数 65,000個

対象 ランナー、ボランティア、審判員、
沿道応援など



Phase 1 「安全・安心な大会」のPR ②

取組1-2 警備・救護体制の情報発信

警備・救護体制に係る情報を大会当日に向け継続的に発信していきます。その際には、各メディアへの協力やSNS等を活用し、犯罪に対する抑止効果を高めるとともに、警備・救護体制の強化について、ランナーや観衆にも理解を求めていきます。

【リリースタイミング予定】

- 11月28日（金） 12/11合同訓練の取材案内
- 12月11日（水） テロ対策合同訓練の実施（取組2-4）
- 12月19日（木） 理事会（警備救護強化プロジェクトの取組について）
- 1月10日（金） 1/19講習会及び研修会の取材案内
- 1月19日（日） 普通救命講習会及び医療救護研修会の実施（取組3-2）
- 2月21日（金） 主催者会見

【対象メディア】

東京マラソン共催メディア（読売新聞、日本テレビ、フジテレビ、産経新聞、東京新聞）
都庁記者クラブ、運動記者クラブ
大会公式ホームページ
参加者案内メール
財団公式Facebook、Twitter

Phase 2 警備体制の強化 ①

取組2-1 警備・監視体制の増強

巡回専属の警備員を増強するとともに、監視カメラを新たに設置し、大会会場（スタート地点、コース上、フィニッシュ地点）内における死角をなくします。

取組2-2 規制エリア入場の際のチェック強化

規制エリア入場に必要なAD（アクレディテーション）カードの発行や、入場の際のチェックを厳しくします。

特に、スタートエリアの入場ゲートにおいては、固定式金属探知機を設置し、入場者の手荷物検査を強化します。

また、フィニッシュエリアにおいては、観覧席（スタンド）及びランナーとの待ち合わせエリア（西展示棟）に観覧者等が入場する際、新たに手荷物検査を実施します。



※スタートエリアでの手荷物検査



※固定式金属探知機

Phase 2 警備体制の強化 ②

取組2-3 コース沿道地域との連携

コース沿道での異変を発見するには、日常的に利用している地域の方々の協力が不可欠です。沿道地域の町会・自治会、商店街等に対し、監視活動への協力を要請していきます。

活動の際には、リストバンド（取組1-1）のほか、帽子等目立つアイテムを付けてもらうことで、抑止効果を高めていきます。

取組2-4 大会スタッフ等への危機管理対応等の啓発

大会スタッフ等への事件・事故発生時における危機管理対応等の啓発として、東京湾岸警察署と連携し、テロ対策合同訓練を実施します。また、各スタッフへの大会運営業務説明会等においても、マニュアルに対応策を盛り込み、啓発していきます。

【テロ対策合同訓練実施概要】

日時 2013年12月11日(水)19:00～

対象 地域団体、大会スタッフ、
ボランティア等（500名程度）

場所 東京ビッグサイト

内容 爆発物、有毒ガスなどによるテロを想定
した対処訓練及び講義



※スポーツ祭東京2013開催に向けたNBCテロ対処訓練

Phase 3 救護体制の強化 ①

取組3-1 フィニッシュ地点の救護機能強化

フィニッシュライン付近における事件・事故に備え、フィニッシュ地点に医師、看護師、トレーナーを増員します。

また、東京ビッグサイト内のフィニッシュ付近のスペースを緊急救護所に転用できるように資器材を準備します。

取組3-2 医療救護スタッフ等への緊急対応等の啓発

医療救護スタッフ等への事件・事故発生時における緊急対応等の啓発として、普通救命講習会及び医療救護研修会を実施します。

【普通救命講習会概要（予定）】

日時 2014年1月19日（日）12:00～
対象 東京マラソン2014参加ランナー、ボランティア等（1,500名程度）
場所 東京ビッグサイト
内容 普通救命講習会カリキュラム
（止血方法など外傷対応も含む）

【医療救護研修会概要（予定）】

日時 2014年1月19日（日）18:00～
対象 救護所構成員（救護主任、医師、看護師、トレーナー等）
場所 東京ビッグサイト
内容 警察署による講話、集団外傷発生時の対応、シナリオトレーニング

Phase 3 救護体制の強化 ②

取組3-3 救急車両等の配備や協力医療機関の確保

東京消防庁と連携し、ポンプ車や救急車のほか、スーパーアンビュランス（※）を配備するとともに、トリアージ（※）シートやトリアージタグを配備し、緊急時の対応に備えます。

また、医療機関の確保については、事前にコース近隣の救急病院以外の病院に対しても協力を要請していきます。

※スーパーアンビュランスとは、救急車として患者搬送を行えるほか、ボディを左右に拡張することにより、床面が最大約40㎡に広がり、最大ベッド数8床の救護所としての機能を有する特殊救急車です。

※トリアージとは、一般的には、災害時に治療や搬送の優先順位を決定することとされています。



※スーパーアンビュランス



※トリアージシート



※トリアージタグ

※医療救護の側面からの競技コース検証

医療救護の側面から現在の競技コースを検証した結果、スタートが狭く、品川の折返し地点や臨海部の橋梁部分、フィニッシュ地点の海側からのアクセス等、様々な課題を抱えていることが分かった。しかしながら、コース変更は多くの調整を要することから、本プロジェクトでは、現在のコースで出来得る対策として検討し、報告しています。

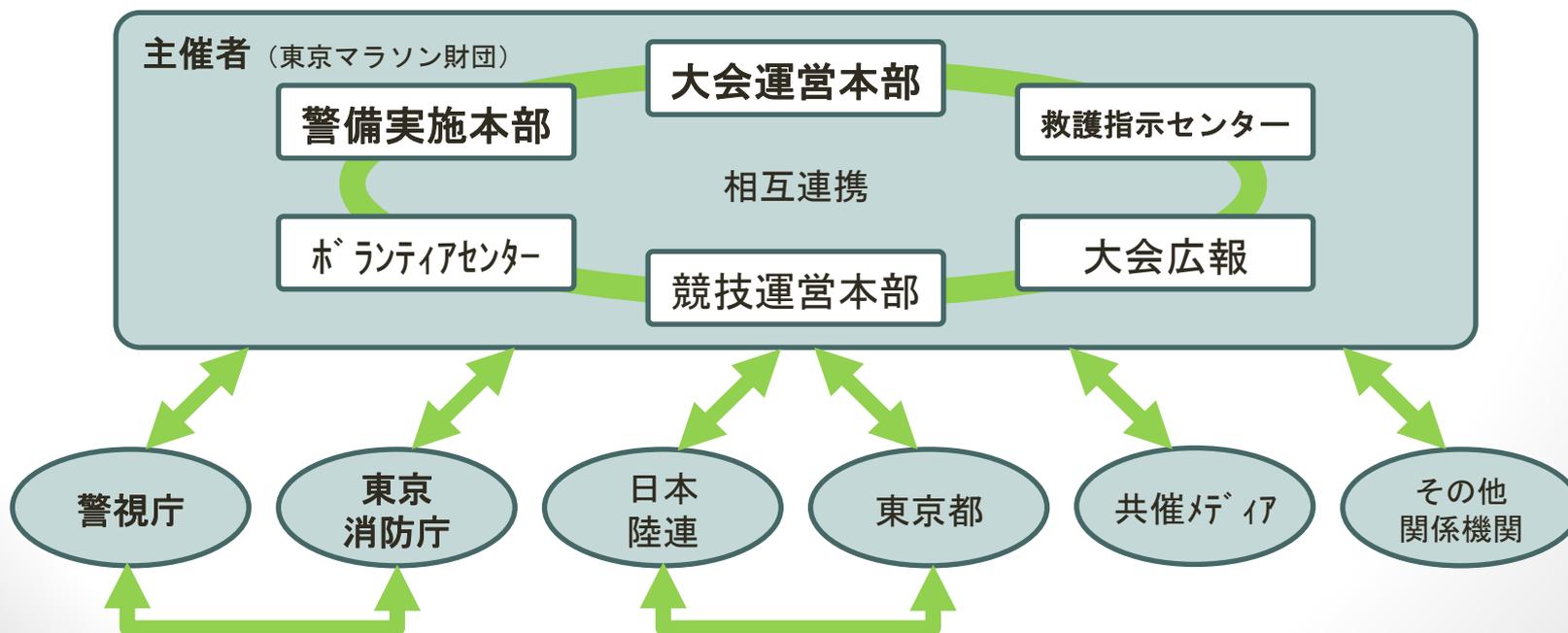
危機管理体制の強化 ①

取組 1 情報連絡体制の強化

状況等をいち早く大会関係者間で共有し、速やかに緊急対応が取れるようにするとともに、大会運営本部において競技継続の可否等、適切かつ迅速な意思決定及び大会関係者への指示が行われるよう、情報連絡体制を見直します。

特に、緊急時における大会運営本部と警視庁、東京消防庁並びに警備実施本部及び救護指示センターとの連携を強化します。

【情報連絡体制イメージ図】



危機管理体制の強化 ②

取組 2 通信インフラの強化

緊急時における情報伝達手段を確保するため、各拠点（取組 1 イメージ図参照）を中心に広域無線を導入し、独自の通信回線を確保します。

※広域無線の例



さらに進化したネットワークシステム
流通業界の通信システムに
大きな進化をもたらす
ボイスパケットトランシーバーの
登場です。

Voice
Packet
Transceiver

MOBILE CREATE

The image shows a black mobile phone connected to a black base station via a coiled cable. The background is a blue and white wavy pattern. Text is overlaid on the left side of the image.

ボイスパケットトランシーバーは、革命とも言えるまったく新しい通信システムを構築できます。非常時にも安定的な通信を可能としたデジタル携帯通信網を利用することにより、導入費用、ランニングコストを削減するとともに、より広いエリアでの通信が可能になります。さらに使いやすく、通信機能を大幅に充実させたボイスパケットトランシーバーは、業界のパイオニアとして、これからの流通通信システムを大きく変えていきます。

資料

東京マラソン警備・救護強化プロジェクト名簿

	氏名	役職等
責任者	櫻井 孝次	(一財)東京マラソン財団理事長
議長	手塚 雅之	(一財)東京マラソン財団事務局長
統括ディレクター	早野 忠昭	(一財)東京マラソン財団事業担当局長
委員	大月 正司	警視庁警備部管理官
委員	関根 雅雄	警視庁交通部管理官
委員	松井 晶範	東京消防庁参事兼警防課長
委員	石坂 敏明	東京消防庁参事兼救急管理課長
委員	尾縣 貢	(公財)日本陸上競技連盟専務理事
委員	山澤 文裕	(公財)日本陸上競技連盟理事(医事委員長)
委員	三浦 隆	東京都スポーツ振興局スポーツ施設担当部長
委員	田中 利雄	(公財)東京陸上競技協会理事長
委員	野口 英一	(公財)東京防災救急協会副理事長
委員	伊藤 雅史	(公社)東京都医師会理事
委員	山本 征悦	(一財)東京マラソン財団参与
委員	藤本 和延	(一財)東京マラソン財団参与
広報活動分科会座長	加藤 智久	(一財)東京マラソン財団マーケティング本部長
警備強化分科会座長	清水 俊二郎	(一財)東京マラソン財団経営管理本部長
救護体制の整備と強化分科会座長	七澤 英次	(一財)東京マラソン財団運営統括本部長

広報活動分科会 名簿

	氏 名	役 職 等
座 長	加藤 智久	(一財)東京マラソン財団マーケティング本部長
委 員	本田 香代子	(公財)日本陸上競技連盟事業部広報担当部長
委 員	福嶋 義博	東京都スポーツ振興局スポーツ事業部東京大マラソン祭り担当課長
委 員	名越 龍也	(一財)東京マラソン財団マーケティング本部事業開発担当部長
オブザーバー	長井 大地	読売新聞社
オブザーバー	土谷 幸弘	日本テレビ放送網
オブザーバー	長谷川 雅宏	フジテレビジョン
オブザーバー	石坂 太一	産経新聞社
オブザーバー	阿部 康	東京新聞
事務局	黒川 淳子	(一財)東京マラソン財団広報業務担当

警備強化分科会 名簿

	氏 名	役 職 等
座 長	清水 俊二郎	(一財)東京マラソン財団経営管理本部長
委 員	早川 恵八	警視庁警備部警備第一課警備実施第3係長
委 員	辻 勇樹	警視庁交通部交通規制課道路第2係長
委 員	伊藤 潤	警視庁公安部公安総務課公安対策本部
委 員	萩森 義男	東京消防庁警防部副参事(警防担当)
委 員	福嶋 義博	東京都スポーツ振興局スポーツ事業部東京大マラソン祭り担当課長
委 員	平塚 和則	(公財)東京陸上競技協会理事
委 員	井上 克巳	(一財)東京マラソン財団運営統括本部副部長
委 員	森村 ゆき	(一財)東京マラソン財団運営統括本部ボランティアセンター長
オブザーバー	大野 元毅	(株)電通スポーツパートナーズ
オブザーバー	田中 治	(株)シミズオクト
事務局	榎本 敬一	(一財)東京マラソン財団運営統括本部副部長

救護体制の整備と強化分科会 名簿

	氏 名	役 職 等
座 長	七澤 英次	(一財)東京マラソン財団運営統括本部長
進行統括委員	石川 秀樹	東京マラソン医療救護委員会委員
委 員	小林 一広	東京消防庁救急部救急指導課長
委 員	伊藤 雅史	(公社)東京都医師会理事
委 員	宮崎 収	東京都福祉保健局医療政策部救急医療課災害医療担当課長
委 員	新藤 博	(公財)東京防災救急協会救急業務部長
委 員	三橋 敏武	(公財)東京陸上競技協会医事委員長
委 員	田中 秀治	国士舘大学体育学部スポーツ医科学科教授
委 員	森下 修身	(一財)東京マラソン財団医療救護業務担当
陪 席	山澤 文裕	東京マラソン医療救護委員会委員長
事務局	大喜田 洋一郎	(一財)東京マラソン財団運営統括本部

プロジェクトの開催状況

2013年 6月17日	第1回警備・救護強化プロジェクト全体会
24日	第1回広報活動分科会
26日	第1回救護体制の整備と強化分科会
7月26日	第1回警備強化分科会
29日	第2回広報活動分科会
8月1日	第2回救護体制の整備と強化分科会
26日	第3回広報活動分科会
9月4日	第2回警備強化分科会
9日	第4回広報活動分科会
17日	第2回警備・救護強化プロジェクト全体会
10月3日	第3回救護体制の整備と強化分科会
11月26日	第3回警備強化分科会
12月4日	第3回警備・救護強化プロジェクト全体会